

れい わ ねん ど

令和5年度

がっ こう じゅん かい こう えん じ ぎょう

学校巡回公演事業

いっぱん しゃだん ほうじん げきだんの じどう げき こう えん
一般社団法人 劇団野ばら 児童劇公演

劇団野ばら名作劇場公演

山の風から聞いた話

原作
脚色
演出
監修

宮澤賢治
北川明光
笠本康一
香川良成

第1話

どんぐりと
山猫

第2話

セゴゴシユ
の
弾
き

「学校巡回公演事業」

小学校・中学校等において文化芸術団体による実演芸術の巡回公演を行い、
子供たちが質の高い文化芸術を鑑賞・体験する機会を確保するとともに、子供たちの
豊かな創造力・想像力や、思考力、コミュニケーションの能力を養い、
将来の芸術家や観客層を育成し、優れた文化芸術の創造に資することを目的としています。

ワークショップでは、子供たちに実演指導又は鑑賞指導を行います。

又、実演においては、子供たちが参加できる工夫を行います。



舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)
独立行政法人 日本芸術文化振興会

自分たちの生きている国、生きている時代から、つねに目をそらさず、同じ時代に生きる子供たちとともに「生きていることのよろこび」を共有できるような舞台をつくりたい
それが私たちの変わらぬ願いなのです。

宮澤賢治名作童話 山の風から聞いた話

第1話 どんぐりと山猫

〈あらすじ〉

おかしなはがきが、ある土曜日の夕方、一郎のうちにきました。

かねた一郎さま 九月十九日

あなたは、ごきげんよろしいほど、けっこです。

あした、めんどなさいばんしますから、おいでんなさい。とびどぐもたないでください。

山ねこ 拝

一郎は、うれしくて、うれしくて、山猫のにやあとした顔や、そのめんどうだと言う裁判のことなど考えて、おそくまで眠りませんでした。次の日の朝早く、一郎は山猫に会いに、尋ね尋ねて山の奥深く入って行きました。山猫は、どんぐりたちの裁判で、困り果てていたのです。

どんぐりたちは、わあわあわあわあそれは大変な騒ぎようで、誰が一番偉いのかを争っていました……。

そこで、裁判が始まります……。

第2話 セロ弾きのゴーシュ

〈あらすじ〉

ゴーシュは、町の金星音楽団のセロ(チェロ)を弾く係でした。

ひるすぎみんなは、今度の町の音楽会に出す第六交響曲の練習をしていました。突然、楽長の怒鳴り声。

「セロがおくれた。トオテテ テテテイ ここからやり直し。はい。」

しばらくして、また楽長の怒鳴り声。

「だめだ、まるでなっていない。おい、ゴーシュ君。表情ということがまるでできてない。怒るも喜ぶも感情というものがさっぱり出ないんだ。困るよ、しっかりしてくれないとね。では、今日は練習はここまで。」

それからというものは、ゴーシュは毎晩虎みみたいな勢いで練習にうちこみました。すると、夜毎にいろいろな動物が、尋ねてきてはゴーシュを励ますのでした。三毛猫、かつこう鶏、狸の子、野ねずみ……。

それから六日目の晩、とうとう音楽会の日がやってきました……。

知っていますか？ 10月1日は「国際音楽の日」です。

1977年にユネスコの要請で設立された国際音楽評議会という会議で、翌年の1978年から毎年10月1日を、世界の人々が音楽を通じてお互いに仲良くなり交流を深めていくために「国際音楽の日」とすることとしました。

日本では、1994年から毎年10月1日を「国際音楽の日」と定めています。